

<先週の説教から>

『復活日礼拝 — 牧者の杖の下を通らせて導く』

武田 真治 牧師

エゼキエル書 20:33~37 ヨハネ福音書 6:37~40

今日のこの礼拝の前に、日曜学校のイースターページェントが演じられました。イエス様がエルサレムの町に入られてからの“十字架への歩みと復活”の朝までの様子を、子どもたちを中心にお母さんたちにも出演してもらって演じてもらいました。拝見しながら、改めて思いましたことは、いかにイエス様の十字架への歩みは厳しく、むごたらしいものかということです。故に、よく『十字架についての話を聞くのは辛い』と言われるのも無理がないかもしれません。

ただ、代々のキリスト教会がレント=受難節を設けて、毎年イエス様の十字架を覚えるようにして来たのは、その厳しい“十字架への歩み”を振り返る時に、私たち自身もその場所に居たとしたら、きっと弟子たちと同じようにイエス様を見捨てて逃げてしまっただろうと思ひ、また、エルサレムの町の群衆と同じように『十字架につける』『バラバを』と言ってしまふかもしれない等、自らの“罪”を如実に感じる事が出来るからです。イエス様の十字架への歩みほど、私たち人間の持つ“罪の現実”を鮮やかに示してくれるものはないのでしょうか。だから、こうして主の十字架を見上げるのです。そして、その時に、イエス様が十字架の上で語られた『彼らの罪を赦したまえ。』という赦しの言葉が、深い意味を持って私たちに迫ってくるようになるのではないのでしょうか。

今日は旧約聖書のエゼキエル書のみ言葉を読みました。まさに、以上のイエス様による“救い”をあらかじめ預言している箇所です。即ち「わたしはお前たちを、諸国の民の荒れ野に導き、顔と顔を合わせてお前たちを裁く。」です。この 20 章は、これまでの旧約の民の歴史を振り返り、第一世代（モーセに率いられた荒野を旅した時代の民）も第二世代（ヨシュアに率いられてカナンの地に定着した時代の民）も第三世代（ダビデやソロモン等の王様に率いられた王国の民）も、みんな神様に背いたことが告発されています。その上で、神様は“新しい世代”を起こされると。それ

が新約のイエス様に率えられる神の民だと。神様は、その民ひとり一人と「顔と顔を合わせて裁く」と。この裁くという言葉は「語る、議論する」とも訳せますように、ひとり一人の顔を見て話しをしてくださり、その上で導いて下さると。しかも、その後の箇所では「わたしは、お前たちを牧者の杖の下を通らせて、契約のきずなのもとに導く。」とも言われているのです。明らかに、イエス様という真の“牧者=羊飼い”に導かれることを教えてくれています。まさに私たちひとり一人をイエス様は「(牧者の)杖の下を」一匹一匹と確認し、導いて下さると。そして「契約のきずな=天のみ国で私たちも復活する」という約束の場所へと入れて下さるのだということでしょう。まさにイエス様の言葉「わたしをお遣わしになった方の御心とは、わたしに与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。」(ヨハネ福音書6章39節)の言葉通りですね。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 4月15日(水)20:00
II. 4月16日(木)10:30

聖書研究: ヨブ記
祈祷主題: かにかた婦人の村を覚えて
担当者: (水)YS (木)ST
祈りに覚える人 KAさん KKさん

【教勢報告】

主日礼拝 男21 女62 計83
祈祷会 I. 男4 女2 計6 II. 男1 女5 計6
日曜学校 幼稚科8 小中科17 計25

【次週礼拝】

4月 19日(日)
聖書: 列王記下 4:42~44
ルカによる福音書 9:10~17
説教: 「ルカ74—天を仰いで、パンを裂く」

武田 真治 牧師

讃美歌: 333(1)、32、152、194、390、
83(1)

【次週当番表】

司式: KH 長老 奏楽: MA 礼拝: KY 長老
献金: KH KS 受付: IY YS
会堂準備: KK KH KA TN
NE

看板: ST 週報: YS お花: HM

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・はこぶねルーム
礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・日曜学校教師会
・幼稚園理事会 ・オリブの葉編集委員会

週報

2025年度 教会標語

「神様に“望み”を持って、生きる！」

2026年 4月 12日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549